

# 第21回東伏見スポーツサイエンス研究会

グローバルCOEプログラム「アクティブ・ライフを創出するスポーツ科学」

日時 2013年10月2日(水) 18:15より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)304号室

## 演題 日本のスポーツにおける体罰:文化主義的な解釈を超えて

Aaron MILLER 先生  
(京都大学)

若年層への体罰は、どの社会においても賛否両論のある問題である。最近、日本では2つの悲劇が起こったことにより、体罰は再び幅広い注目を集めるようになった。今年1月、大阪に住む高校生が、バスケットボール部のコーチに何度も殴られたのち、自らの命を絶った。数週間後、女子柔道のナショナルチームのコーチが、ロンドンオリンピックの前から、選手たちに対して体罰を行っていたことが発覚した。大阪の少年はチームのキャプテンであり、コーチから厳しい追い込みを受けていた。柔道のコーチは、自らの行為は「金メダルを持って帰ることに強いプレッシャーを感じていた」からだと述べた。この2つの事件は、日本において長く続けられてきた、身体訓練の適切な限度についての議論を再び燃え上がらせるとともに、学校での体罰の使用を続けることに再考を迫っている。

本報告は、拙著”*Discourses of Discipline: An Anthropology of Corporal Punishment in Japan’s Schools and Sports*” (Institute for East Asian Studies, UC Berkeley, 2013)を紹介し、日本における体罰問題について、文化主義的な解釈からではなく、フーコー理論を用いた解釈から検討したいと思う。



早稲田大学 スポーツ科学学術院  
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・紙上敬太  
早稲田大学 スポーツ科学学術院  
E-mail: masaki@waseda.jp